

## 【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標 1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」  
交通事業者との連携を強化して軸となる路線の維持・改善を図る

## 【目標指標】年間輸送人員／実車走行キロ

□市内全路線	当初（平成28年度）	：2.03人/km
	<b>現状値（平成29年度）</b>	<b>：1.98人/km △0.05人</b>
	目標値（平成34年度）	：現状維持（2.03人/km）
□軸となる区間	当初（平成28年度）	：2.41人/km
	<b>現状値（平成29年度）</b>	<b>：2.37人/km △0.04人</b>
	目標値（平成34年度）	：増加（2.41人/kmから）

## ■施策 1 バス路線の維持と継続的な見直し

## ①交通事業者との連携強化

必要に応じて打合せや分科会を開催し情報共有や協議等を行う。  
「飯能営業所存続及び今後の同営業所の運営に関する協定」を締結する。（国際興業）

## ②補助金の継続

基幹交通となっているバス路線に対して、補助金を継続して交付する。

## ③利用実績のモニタリングによるバス路線の見直し

運行改善や利用促進につながるモニタリングを効果的に実施する。

## ■施策 2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

## ①観光施策と連携した利用促進

「お散歩マーケット」（南高麗地区）、「夏休み！親子で川遊び体験」、「名郷味市」、「なぐり見聞食ブラ散歩」（名栗地区）等地域と連携して実施する。

## ②市内コンテンツを活用した利用促進

アニメ「ヤマノススメ」、メッツァ、農林産物加工直売所やませみ等を活用した路線バスの利用促進を検討、実施する。

## ③おでかけ促進と連携した利用促進

地域のイベント、商業施設等とのコラボによる路線バス利用促進事業を実施する。

## ■施策 3 バス運行環境の整備

## ①バス停の待合環境の改善

必要に応じ関係者の役割分担を検討する。

## ②施設を活用した待合環境の整備

交通結節点の候補場所を検討する。

## ③飯能駅北口ロータリー周辺の使い方の改善

必要に応じ、対策を検討する。

## ④市内道路網の課題解決に向けた取組の実施

交差点の改良等を進める。

## ■施策 4 需要に応じたバス路線の見直し

## ①施設立地等に対応したバス路線の見直し

新たな商業施設のオープンに伴い路線バス運行環境を整備する。

基本目標 2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」  
利用しやすい公共交通環境をつくり、おでかけを促進する

## 【目標指標】路線バスを1年間に1回以上利用した割合

現状値（平成29年度）	市民アンケート結果 = 41%
目標値（平成34年度）	市民アンケート結果 = 43%
	→（2ポイントの増加）

## ■施策 1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

## ①わかりやすいバス案内看板の設置

飯能駅北口にわかりやすいバス案内看板を設置する。

## ②バスマップの作成・配布

「飯能市バスルートマップ」（H30改訂）を増刷、配布する。

## ■施策 2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施

## ①まちなかのおでかけに対するモビリティマネジメント

各種割引サービス等の交通事業者による既存の取組を周知する。

## ②通勤・通学者等に対するモビリティマネジメント

全市的な「ノーマーカーデー」、市内高等学校の生徒への利用促進を実施する。

## ■施策 3 マイバス意識の醸成

## ①バスを使ってもらう取組

路線バスを使ったツアー、スタンプラリー等を実施する。

## ②バスのことを理解してもらう取組

はんのう生活祭等において「バスの乗り方教室」、ダイヤプラン5市での公共交通啓発事業、市民向けの出前講座等を実施する。

## ③地域におけるマイバス意識の醸成

路線バスに愛着を持って利用していただけるような取組を推進する。

## ■施策 4 公共交通利用のための利便性の向上

## ①乗継利便性の向上

候補場所を検討する。

## ②高等学校等バス通学費補助

継続して実施する。補助の範囲等を検討する。

## ③利便性向上のための設備投資

バスまちスポット、まち愛スポットを継続して運用する。

西武鉄道・東飯能駅及び元加治駅ホームに内方線付き点状ブロックを整備する。

基本目標 3：生活を支える公共交通手段を「つくる」  
おでかけを支える公共交通手段を地域が主体となって確保する

## 【目標指標】将来（10年後）の外出に不安を感じる人の割合

□全年代	現状値（平成29年度）	市民アンケート結果 = 58%
	目標値（平成34年度）	市民アンケート結果 = 58%未満
□65歳以上	現状値（平成29年度）	市民アンケート結果 = 84%
	目標値（平成34年度）	市民アンケート結果 = 84%未満

## ■施策 1 「おでかけ」を守るための検討

## ①飯能市地域公共交通対策協議会の運営

必要に応じて、定期的に協議会及び分科会を開催する。  
地域での移動手段導入において、意見、助言等を求めるとともに合意形成を図る。

## ②地域での交通手段を導入するための仕組みづくり

「地域主体による生活交通の導入・確保の手引き」を周知し、配布する。  
各地域の実状に応じた移動手段の導入及び運行支援を実施する。

## ③地域による主体的な運営組織づくり

市民アンケート等に基づき地域の現状・課題を整理するとともに課題の解決に向けた取組案を示すことにより、公共交通の運営組織づくりを推進する。

## ■施策 2 社会資源の活用の検討

## ①スクールバスの混乗

奥武蔵小学校スクールバスへの住民混乗を実施する。  
その他の小学校スクールバスに混乗が可能かどうか交通事業者と検討を進める。

## ②送迎バスの活用検討

総合福祉センター送迎車両に代わる交通空白地・不十分地域を運行する移動手段を検討する。  
原市場・南高麗福祉センター送迎車両を活用した停留所（地域拠点）までの移動手段を検討し、実証運行を開始する。  
その他市内福祉施設の送迎車両の活用可能性について検討する。